

「北山エリア整備基本計画」(骨子案)に対する御意見と京都府の考え方

- 意見募集期間 令和2年9月29日(火)～10月19日(月)
- 寄せられた意見 55名から 142件の御意見をいただきました。

区分	意見の要旨	京都府の考え方
将来像①	豊かな自然環境に配慮して、整備をしてほしい。	本計画3(1)に記載のとおり、「豊かな自然に包まれた環境」に配慮しながら、北山エリアが持つポテンシャルを最大限に発揮できるよう整備を行ってまいりたいと考えております。
	周辺の住環境に配慮して、整備をしてほしい。	本計画3(1)及び4(6)に記載のとおり、閑静な住宅地である周辺環境へは十分に配慮し、整備を行ってまいりたいと考えております。
	整備にあたっては、北山エリアの特性を活かし、再生可能エネルギーの活用等、環境への配慮や防災性にも優れたエネルギーシステムの導入が必要。	御意見を踏まえ、環境や防災への配慮について、本計画4(6)留意事項に追加しました。
	植物園の景観に配慮した整備をしてほしい。	植物園を中心とした豊かな自然に包まれた環境や景観に配慮しながら、北山エリアの魅力を高めるよう、整備を進めてまいりたいと考えております。
	新たな施設ができることによって、植物園の希少な植物が伐採されるなど、環境が壊されることのないようにしてほしい。	
	植物園の学術的・歴史的価値を重視し、植物園は単なる公園としないしてほしい。	本計画4(3)ウに記載のとおり、植物園の大切な役割である教育・学習・研究機能、希少植物の保全活動の継続及びこれまで培ってきた貴重な技術の継承をしながら、来園者の満足度を高めるための柔軟で弾力的な企画・運営方法の導入等、最適な整備・運営などについて検討を進めてまいります。
	植物園は府内の絶滅危惧植物など、貴重な植物を保存育成するため、直営としてほしい。	いただいた御意見は今後具体的な整備・運営に向けた検討を進めていく際の参考とさせていただきます。
	植物園の観覧温室は現在の場所での改修が望ましい。上から見下ろすことができるなど、観覧場所の工夫をしてほしい。	
	植物園の温室を解体し、別の展示施設にすれば幅が広がる。	
	植物園は現在の温室を存続した上で、機能的な温室を別に整備し、研究員を常駐させるとよい。	
植物園は立地・規模を生かし切れていない。植生の魅力とソフト面を充実させていくとよいのではないか。		
植物園は接遇サービスの向上など、新たな来園者に来てもらえるような働きかけをしてほしい。		

将来像①	豊かな自然と文化が混じり合う北山エリアのような素敵な街はそうそう無い。30年前に感じたハイセンスさが戻れば今よりさらに魅力的になる。	北山エリアが持つポテンシャルを最大限発揮できるよう、整備を進めてまいります。
将来像②	北山エリア内での回遊性を確保し、利便性が高まるようにしてほしい。	本計画3(1)に記載のとおり、将来像として「オープンに繋がる空間」を設定し、エリア外を通らなくても回遊でき、思わず周遊したくなるような空間づくりを目指してまいります。
	各施設がオープンにつながることで、貴重な財産を守るためのセキュリティの確保を両立させてほしい。	オープンにつながる空間づくりとともにセキュリティの確保についても留意して整備を進めてまいりたいと考えております。
	植物園の入園料を無料化し、ニューヨークのセントラルパークのように自由に人が往来できるようにするべきではないか。	いただいた御意見は今後具体的な整備・運営に向けた検討を進めていく際の参考とさせていただきます。
将来像③	植物園の正門整備はビジターセンターや植物園ならではのショップ・カフェ等を併設するなど、賀茂川側と一体的に整備するべき。	北山通や半木の道の連続性を確保しながら、人の流れをエリア内に引き込む商業空間の整備や動線の確保ができるよう整備を進めていくことが重要と考えており、本計画4(2)及び(3)ウに追加しました。
	賀茂川側に植物園の出口を設け、夜間は光の遊歩道とするなど、植物園と北山街が一体となった開放的なアプローチができるとうい。	
	賀茂川は散歩やジョギングや楽器の練習ができ、心も体も健やかにしてくれるが、雨天時に子供から大人まで憩える場所がない。	
	北山通側は夜は暗く、賑わいが乏しいので飲食店舗を作るなど、賑わいが生まれるようにしてほしい。	
将来像③	飲食施設を整備するのではなく、周辺の既存店舗の活用や共存を図るべき。	本計画3(1)に記載のとおり、北山エリアの集客が周辺の商業空間に波及するなど、地域経済が活性化するよう整備を進めてまいりたいと考えております。
	植物園にはすでにカフェやレストランがあり、環境や景観の保全の観点から新たな集客施設やレストラン等は不要。	本計画4(2)に記載のとおり、北山エリアが目指す将来像を多様な人々が集まり交流するまちとし、植物園においては、豊かな自然に包まれた環境に十分配慮しながら、北山エリアの魅力をもっと高めるために必要な整備を進めてまいりたいと考えております。
	旧総合資料館跡地には、北山エリアが賑わう施設を作してほしい。	旧総合資料館跡地等の活用にあたっては、文化施設単体で整備するのではなく、魅力的な体験ができる機会の創出など、賑わい・交流機能も併せて整備をしてまいりたいと考えております。
	旧総合資料館跡地には宿泊機能を兼ね備えた劇場を建設してほしい。	

将来像③	<p>植物園で夜にアルコールが飲める店を設置するなど、魅力的な施設を作ってほしい。</p>	<p>いただいた御意見は今後具体的な整備・運営に向けた検討を進めていく際の参考とさせていただきます。</p>
将来像④	<p>北山エリアの計画について、さらに北山が充実した街になりそうでワクワクする。旧総合資料館跡地に魅力的な文化施設ができれば市民にとって憩いの場所になるのではないかと期待する。</p>	<p>旧総合資料館跡地等に整備予定のシアターコンプレックスは老朽化した文化芸術会館やこども文化会館の機能継承が必要と考えており、本計画4（3）アに追加しました。</p> <p>また、旧総合資料館跡地等の整備の方向性において、ホール機能（舞台芸術系）だけでなく展示機能（視覚芸術系）、創作機能・交流機能も集積させ、様々な文化芸術団体や若手芸術家等にとって使いやすい施設整備を進めてまいります。</p> <p>具体的な整備・運営については、今後検討を進めてまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地は北山通に面し、地下鉄北山駅に接する北山エリアの重要な場所であり、新たな文化・芸術の創造・発信の拠点として今後有効に活用してまいりたいと考えております。</p> <p>本計画4（3）アに記載のとおり、エリアに立地する既存施設や周辺施設と連携し、役割分担を図りながら整備を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>本計画4（3）アに記載のとおり、多様な文化芸術活動に対応でき、運営面も含めて柔軟性の高い施設とするために必要な設備を備えた使いやすい施設を目指します。</p> <p>具体的な整備・運営については、今後検討を進めてまいります。</p> <p>旧総合資料館は平成29年度末に京都学・歴彩館へ機能移転が完了したことから、跡地活用について検討を進めてきており、北山エリアの魅力を最大限発揮することや既存文化施設の機能継承の必要性等を考慮し、舞台芸術系・視覚芸術系が集積した交流・創造・発表の機能や賑わい・交流機能が望ましいと考えておりますので、ご理解をお願いします。</p>
	<p>旧総合資料館跡地には、文化芸術会館やこども文化会館の機能を継承し、次世代の育成に必要な機能も付加してほしい。</p>	
	<p>シアターコンプレックスを効率的に機能させるため、経験ある人材の確保が必要。</p>	
	<p>文化芸術会館の利用者や運営者の意見を踏まえて整備・運営をしてほしい。</p>	
	<p>旧総合資料館跡地においては様々な活用が考えられ、府民にとって必要な施設として有効に活用してほしい。</p>	
	<p>旧総合資料館跡地活用に当たっては上手く周辺施設と役割分担をしてほしい。</p>	
	<p>シアターコンプレックスの整備に当たっては、誰もが使いやすくなるよう、機能や料金設定に工夫が必要。</p>	
<p>シアターコンプレックスは単独公演だけでなく複数団体でのフェスティバル的な活動ができるよう、柔軟な運営をしてほしい。</p>		
<p>旧総合資料館は貴重な建物であり、現状のまま活用してほしい。</p>		

将来像⑤	府立大学のグラウンドや体育館などのスポーツ施設は地域住民や一般府民にも開放してほしい。	府立大学におけるスポーツ施設の開放はすでに始めておりますが、大学側とも調整し、大学の利用を確保しながら更に検討を進めてまいります。
	北山エリアやアリーナの計画は学生や教職員等に具体的な説明を行い、意見を求めるべきである。	府立大学の体育館については、本計画4(3)イに記載のとおり授業や課外活動における学生の利用を優先とすることを明示するとともに、今回のパブリックコメントや府立大学との協議等で提起された意見を踏まえて、今後も検討を進めてまいります。
	府大体育館はスポーツだけでなく、コンサートや大規模展示会をするなど、多機能化が図れるとよい。	府立大学の体育館については、本計画4(3)イに記載のとおり多用途での利用を含めて検討しているところです。
	府立大学は体育館以外の施設についても早急な建替や改修が必要。	府立大学の各施設については、大学で整備方針を検討しているところです。
	学部再編や体育館・グラウンドの活用方針等について、府大の将来像が分かりにくい。	学部再編や施設の活用方針等に係る府立大学の方向性については、昨年度策定した「京都府立大学将来構想基本計画」等を踏まえ、現在、大学において具体的な内容を検討しているところです。
	体育館のように教育目的で設置されている大学施設を民間企業に運営させることは適切ではなく、スポーツの興行は北山エリアのあり方と相容れない。また、大規模なアリーナ整備により、自然環境の破壊だけでなく、教育環境や住環境の悪化も懸念される。	民間活力を導入する場合でも、学生が体育施設を使用する機会を確保するなど、大学の教育研究環境や地域の住環境の維持も前提としながら、北山エリアの魅力及びポテンシャルの向上に資するような施設整備の可能性について検討を進めてまいります。
	大学敷地内に新しい施設や設備を設けてほしい(東洋医学研究センター、スカッシュコート、科学館等)	本計画は、北山エリア整備の方向性を定めるものであり、いただいたご意見等を踏まえて、今後具体的な大学施設の整備・運営に向けた検討を進めてまいります。
	府立大学体育館は学生が使う規模以上に大きくする必要はなく、民間との共有は学生が使えなくなるので反対。府立大学農場は都市の中の緑化として学生の教育のため、減らさないでほしい。	府立大学の体育館については、授業や課外活動における学生の利用を最優先に整備し、他の施設については学生の教育環境が維持できるよう検討を進めてまいります。
	医大や工繊大の体育館等、学外の施設や敷地も活用しながら、大学施設の有効活用を図ってほしい。	体育館については、各大学の既存施設の状態や学生の利便性等も踏まえながら限られた敷地を有効に活用できるよう共同体育館の運用方法を検討し、その他施設については、機能の維持と土地の有効活用の観点から、今後の運用方法を検討してまいります。
	府の研修センターまでを府立大学の敷地として整備し、研修は稲盛記念館や歴彩館で行えばよいのではないかと。	

将来像 ⑤	観光や利潤追求でなく、誰もが文化・芸術・自然に触れ、豊かになるような空間にしてほしい。	本計画3(1)に記載のとおり、誰もが文化・芸術・学術・スポーツに触れられる空間づくりを目指してまいります。
全般	北山エリア整備基本計画の将来像を実現するためには行政だけでなく、周辺住民の参画が必要。	本計画を進めるにあたり、周辺住民への周知に努めてきたところであり、今後も引き続き地域と連携しながら計画を進めてまいります。 また、本計画3(1)「多様な人々が集まり交流するまち」に記載のとおり、北山エリア内の施設だけでなく、周辺地域が一体となった事業展開についても検討を進めてまいりますと考えております。
	コンセプトを分かりやすく打ち出してほしい。	北山エリアの目指す多様な方向性を正確に示すため、5つの将来像及びコンセプトを設定しており、全体のコンセプトとして「文化創造の森」を強調するなど表現を工夫しているところですが、引き続き北山エリアの魅力が多くの方に伝わるよう、努めてまいります。
	新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した計画にするべき。	本計画4(6)に記載のとおり、今後の整備・運営にあたっては無観客配信やオンラインシステム等、集客の仕方を工夫するなど、WITHコロナ・POSTコロナ社会における社会状況の変化を考慮してまいりたいと考えております。
	北大路通や北山通に生活用店舗やレストランが減っており、地域住民の利便性向上と地元商店街が活性化するような計画にしてほしい。	北山通や半木の道の連続性を確保しながら、人の流れをエリア内に引き込む商業空間の整備や動線の確保ができるよう整備を進めていくことが重要と考えており、本計画4(2)及び(3)ウに追加しました。
	<p>植物園は以下の課題があり、今後様々な整備・運営が考えられるが、誰もが使いやすく魅力が高まるようにしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化による魅力減少 ・子供が植物について学べる機能の不足 ・子供や障害者が楽しめる施設の不足 ・コンサートができる場所が少ないなど 	<p>植物園のサービスや魅力の向上のためのハード・ソフト両面での整備と併せ、民間のアイデアやノウハウの活用等、来園者の満足度を高めるための柔軟で弾力的な企画及び管理運営について検討を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>具体的な整備や運営については、今後検討を進めてまいります。</p>
	北山エリアのポテンシャルが発揮できていない原因を分析し、特長を活かした計画としてほしい。	本計画2に記載のとおり、北山エリアや周辺地域のポテンシャルと課題について分析しており、それらの特長を活かした整備を進めてまいりたいと考えております。
	ハード整備だけでなく、他施設との連携など、長期的・俯瞰的な視点でマネジメントできる人材や組織が必要。	本計画4(6)に記載のとおり、エリア内の統一的な管理・運営や総合的なプロデュースを持続的に行うことが必要であると考えており、核となる専門人材の配置や様々な主体との連携体制、事業スキーム、行政の関わり方に留意し、計画を進めてまいりたいと考えております。

全般	民間活力を活かした整備をしてほしい。	本計画2(2)に記載のとおり、北山エリアは、「市街地中心部から近く、交通アクセスが便利な場所でありながら、豊かな自然環境に恵まれた一定規模のエリアであり、立地施設との相乗効果を発揮した事業展開が期待できるなど、民間活力導入についてポテンシャルがある地域である」と考えており、整備・運営にあたっては行政単独ではなくPPP(Public-Private-Partnership)をはじめ、民間活力の導入を検討してまいります。
	気候や災害、新型コロナウイルスに対応できるような整備が必要。	本計画4(6)に記載のとおり、WITHコロナ・POSTコロナ社会における社会状況の変化を考慮し、最適な整備ができるよう検討を進めてまいりたいと考えております。
	市民の避難場所としても使える大きな施設を建ててほしい。	大規模災害時等に、避難・復旧時の拠点としても活用できるように本計画4(3)イに追加しました。
	北山エリアの滞在時間が増えるなど、魅力的な施設を作ってほしい。	いただいた御意見は今後具体的な整備・運営に向けた検討を進めていく際の参考とさせていただきます。
	北山エリアへ多様な人が働ける施設やテナント等を誘致してほしい。	
	親子向けに屋内施設を設置するなど多様な人々が楽しめるような施設にしてほしい。	
	陶板名画の庭や京都土木事務所は立地環境を活かし、北山エリア全体の中で必要な整備をしてほしい。	
	北山エリアへのアクセスを向上してほしい。	
	大企業が儲けるような整備でなく京都企業が協力して進められるようにしてほしい。	
	受動喫煙対策に配慮し、北山エリア内を禁煙にしてほしい。	
	北山エリア整備では観光客向けの施設ではなく府民の憩いの場としてほしい。	
	北山エリア整備において、北山通に相応しい街灯の増設や整備を実現するための建築基準法の緩和など、様々な整備や手法が考えられる。	
	住民の意見を聞くことが大事。	
具体的な整備内容や資金計画が分からない。	本計画を進めるにあたり、周辺住民への周知に努めてきたところであり、具体的な整備にあたっては、今後も引き続き地域と連携しながら計画を進めてまいりたい。	

全 般	文化芸術会館は貴重な建物であり、 継続して使用してほしい。	本計画は北山エリア整備の方向性を定めるものであり、 文化芸術会館や京都子ども文化会館の機能継承も考慮しな がら具体的な整備内容を検討してまいりたい。
	京都子ども文化会館の廃止は新施設 ができるまで延期し、子供・市民の文 化活動を保証すべき。	